

平成 18 年 2 月期 第二級陸上特殊無線技士 試験問題

法規 12問 } 24問 1時間
無線工学 12問 }

法 規

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）してください。

〔1〕 基地局を開設しようとするときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 無線局の運用開始の予定期日を届け出る。
2. 主任無線従事者を選任する。
3. 無線設備を設置し、その旨を総務大臣に届け出て検査を受ける。
4. 無線局の免許の申請書を提出し、総務大臣の免許を受ける。

〔2〕 再免許を受けた固定局の免許の有効期間は、次のどれか。

1. 5年
2. 4年
3. 3年
4. 無期限

〔3〕 電波法に規定する「電波」の定義は、次のどれか。

1. 30万メガヘルツ以下の周波数の電磁波をいう。
2. 100万メガヘルツ以下の周波数の電磁波をいう。
3. 300万メガヘルツ以下の周波数の電磁波をいう。
4. 500万メガヘルツ以下の周波数の電磁波をいう。

〔4〕 無線局の免許人又は登録人は、主任無線従事者を選任したときは、総務大臣が別に告示するところによる場合を除き、当該主任無線従事者に選任した日からどれほどの期間内に無線設備の操作の監督に関し総務大臣の行う講習を受けさせなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 5年
2. 1年
3. 6箇月
4. 3箇月

〔5〕 無線従事者が免許証の再交付を受けようとする理由に該当しないのは、次のどれか。

1. 免許証を失ったため
2. 免許証を汚したため
3. 氏名に変更を生じたため
4. 住所に変更を生じたため

〔6〕 第二級陸上特殊無線技士の資格を有する者が、陸上の無線局で人工衛星局の中継により無線通信を行うものの多重無線設備の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作を行うことができるのは、空中線電力何ワットまでか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 100ワット
2. 50ワット
3. 25ワット
4. 5ワット

法 規

〔7〕 無線通信の原則として無線局運用規則に規定されているものは、次のどれか。

1. 無線通信は、迅速に行うものとし、できる限り速い通信速度で行わなければならない。
2. 無線通信は、長時間継続して行ってはならない。
3. 無線通信に使用する用語は、できる限り簡潔でなければならない。
4. 無線通信は、試験電波を発射した後でなければ行ってはならない。

〔8〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与えている旨の通知を受けたときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 直ちにその呼出しを中止する。
2. 空中線電力を低下してその呼出しを続ける。
3. できる限り短い時間にその呼出しを終える。
4. 数秒間その呼出しを中止してから再開する。

〔9〕 免許人（包括免許人を除く。）が不正な手段により無線設備の変更の工事の許可を受けたとき、どの処分を受けるか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 3箇月以内の無線局の運用の停止
2. 無線局の免許の取消し
3. 期間を定めた電波の発射の停止
4. 期間を定めた周波数の制限

〔10〕 免許人又は登録人は、非常通信を行ったときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 直ちに総合通信局長（沖縄総合通信事務所長を含む。）に電話連絡する。
2. 地域防災会議会長にその旨を通知する。
3. 遅滞なく地方公共団体の長にその旨を通知する。
4. できる限り速やかに、文書によって、その旨を総務大臣又は総合通信局長（沖縄総合通信事務所長を含む。）に報告する。

〔11〕 陸上移動局の免許状は、どこに備え付けておかなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 無線設備の常置場所
2. 基地局の無線設備の設置場所
3. 基地局の通信室
4. その送信装置のある場所

〔12〕 次に掲げるもののうち、基地局に備え付けておかなければならない書類は、どれか。

1. 無線従事者選解任届の写し
2. 無線従事者免許証
3. 無線局管理規程
4. 無線検査簿